

## 講義概要

「仏教学」 90分1コマ

講師：齊藤舜健 先生（出雲教区 西方寺）

佐藤堅正 先生（東京教区 心行寺）

仏教の歴史と思想を再確認し、宗学との連携を踏まえて、仏陀観と菩薩思想を中心に仏教の核心（基礎）を理解することを目的とします。

仏陀釈尊の教えと生涯を改めて確認して、インドからアジア全域へと展開する大乗仏教の思想形成の中で、大乗經典の発達を考えながら、仏教2500年の歴史を学びます。

「宗学」 90分1コマ

講師：柴田泰山 先生（福岡教区 弘善寺）

春本龍彬 先生（茨城教区 西光寺）

宗学とはどこまでも自らの思想と信仰と実践が根拠となって展開していく学問であり、仏と向き合い、そして仏の視座から人間の存在と当為を説明できる唯一の学問領域でもあります。その意味で浄土宗学とは選択本願称名念佛一行こそが現実かつ実際に自らの人生の上において実践することを仏教思想史上において解釈することであり、そして自らの人生の意義を往生において見出すこともあります。

そこでこの宗学の講義では、まず宗学の意義をご一緒に考えた上で、法然上人のお言葉などを根拠としつつ浄土宗の教えを学ぶ意義を考え、個々が主体的に宗学の実践ができるることを目標としつつ講義形式で展開して参ります。

「伝道」 90分1コマ

講師：井野周隆 先生（滋賀教区 雲住寺）

布教伝道規程第2条に「本宗の教師は布教伝道を行うものとする」とありますように、浄土宗教師には法然上人のみ教えを布教伝道していく責務があります。

お説教師に任せきりではなく、住職自身が檀信徒を前に語り掛けることで寺院と檀家との関係性もより深まっていくことでしょう。また、檀信徒を前に話をするためには年中行事の意味や由来、関連する逸話を学ぶきっかけとなり、自身の信仰も深まります。

この講義では、法話の組み立て方・『御法語』・や話材等を、講師の実演を含めながら解説し、年回法要・通夜・葬儀等の場で布教伝道ができるることを目標にしています。

## 「現代住職学」 90分1コマ

講師：東海林良昌 先生（宮城教区 雲上寺）

浄土宗寺院は宗教法人として、「宗教（法然上人）の教義を広め、儀式行事を行い、信者を教化育成する」など日々の宗教活動・寺院運営を行っています。そして、住職には代表役員としての法令遵守（適正な管理運営・説明責任・情報開示）などの社会的責任が課せられています。具体的には、宗教法人法や宗門法制に則り、会計帳簿・税務・責任役員会議事録などの書類の作成・提出が義務付けられています。その責任を果たすことにより、檀信徒や地域社会との信頼関係を更に強固なものとすることができます。また、宗教者（住職）と寺院運営者（代表役員）の二面性を持つ我々が、できること・しなければいけないこと・してはいけないこととは何か、実際の事例などを用いてわかりやすく講義し、檀信徒、社会から期待される住職、寺院とは何かを共に探求したいと思います。

## 「法式別時」 90分1コマ

講師：田中勝道 先生（茨城教区 法輪寺）

大澤亮我 先生（京都教区 大圓寺）

各教師は日々の自行と化他の法要に臨んで、宗教者としての勤め方を尋ね実践することは、今日的な課題であるといえましょう。

ここでは「導師の威儀作法」を拠り所として、導師の所作を身・口・意の三業を通してどのように表現することが法要に活かされ教化となり、檀信徒を導くのかを考えて参ります。

また「元祖大師御法語 前編第二十四 別時念佛」の御文を味わい“合間打ち”と相俟った別時の法味を感じ、礼拝とともに念佛行に励みます。

## 「実践僧侶論/社会貢献」 90分2コマ

講師：石田一裕 先生（神奈川教区 光明寺）

地域社会（コミュニティー）の一員である我々（僧侶）を取り巻く環境変化や問題点を指摘する中で、社会から望まれる僧侶像とは何か、具備すべき要素は何か、を考える。

一般社会から聞こえてくる「葬式仏教」や「坊主丸儲け」の声を、“僧侶や寺院は本当の意味で宗教を行っていないのではないか、己の利益だけでなく社会に役立つ存在であるべきだ。”と捉え、現代の寺院・僧侶の地域コミュニティーへの積極的な参加やボランティア活動などにみられる社会貢献の必要性、またその方法について、考えます。

※講義のあと、グループディスカッションで種々意見を交え、広い見識をもって取り組みます。